

令和5年度 栃木県立さくら清修高等学校 学校評価結果

- 知性に満ち、創造性に富む人を育てる。
- 心身ともに健康で、情操豊かな人を育てる。
- 郷土を愛し、国際的な視野を持ち、ともに生きる人を育てる。

本年度の重点目標

- 探究心と向上心を育む指導の充実
- 感性を磨き、遅しく生きる力の醸成
- 地域とともに歩み、社会に貢献できる人材の育成

評価		
A	達成できた	・・・80%以上
B	ほぼ達成できた	・・・79%～60%
C	十分とは言えない	・・・59%～30%
D	達成できなかった	・・・30%未満

学校自己評価							学校関係者評価
学校評価実施概要					評価	達成状況と課題	
評価区分	評価項目	重点施策	具体的方策	方策の評価指標			
(1)	学力向上と進路実現に向けた指導の充実	①魅力的な授業の研究・実践により、生徒の学習意欲を高める。	3観点評価方法のブラッシュアップによる主体的な学習意欲向上	授業評価アンケート 各教科定期考査平均点	C	定期テストの平均点は決して大きく伸びておらず、定期テスト直前以外は家庭学習時間も少ない。主体的な学習意欲はそれほど向上していないと考える。	生徒達の学習時間の少なさや、学習意欲の物足りなさについては、先生方の思いを生徒に伝えるのと同時に、家庭学習と連動するような授業を工夫し、授業改善をすすめてほしい。
			「総合的な探究の時間」を通じて、自己実現を可能とする進路探究を推進	学校評価アンケート 探究活動発表内容	B	各自の進路に合わせた探究を実践している生徒もいたが、2年生の段階で、まだ自分の進路が未決定の生徒に関しては、3年の総合型出願の際に探究と進路先の整合性が合わない生徒も存在していた。テーマ選びが課題だと思う。	
		②キャリア教育と課題研究の字充実により、生徒の自己実現・目標達成を図る。	総合学科の特性を生かし、多様な選択科目の学びによる幅広い教養の獲得	学校評価アンケート バランスのとれた講座人数分布	A	本人が希望しても閉講する科目が多く、真の意味での多様な学びにはなっていないと思う。来年は、さらに閉講科目が多い。	
			より良い自己実現を目指すためのスクールポリシーの策定	幅広い意見聴取と意見交換を通じたスクールポリシー策定	A	スクールポリシーはよく出来ていると思うが、まだ、各教職員の教育活動に良く落とし込めていないのではないかと思う。	
(2)	自己有用感と自己管理能力を高めるための体制の充実	①挑戦や活躍の場を与え、達成感を体験させることにより、生徒の自尊心を育む。	発言やプレゼンテーションを取り入れた授業による達成感の実現	授業評価アンケート 思考・判断・表現評価の向上	A	授業中に指名して、黒板に解答を書かせ、それについて解説をしていくという授業の際によく聞く言葉として、「先生、これ合ってますか？」というものがある。単に成功体験を積み重ねさせ、見せかけの自尊心を持たせるのではなく、人前で失敗してもへこたれない図太さ、失敗を恐れない強さを身につけていくことも重要だと思う。	

(2)	自己有用感と自己管理能力を高めるための体制の充実	①挑戦や活躍の場を与え、達成感を体験させることにより、生徒の自尊心を育む。	学校行事・部活動等、学習以外の様々な活動を通じた自己有用感の実現	特別活動の活性化、実績の蓄積 学校評価アンケート	B	部活動において、生徒が対外的にも重い責任のある役割を担う機会があり、励まし支え、無事にその役割を全うした。終わった後は、関わりのある方々から多くの賞賛や労いを受け、自信につながった。	
		②健康教育、安全教育、特別活動の充実により、生徒の心身の健康を増進する。	日々の健康管理と感染症対策等を通じた自己管理能力の育成	欠席・遅刻・早退数の減少 保健室利用者数の減少	B	安易に欠席する生徒が多くいる。生徒がコロナ禍で身に付けてしまった「頑張らなくていい」「無理せず休む」という意識を変えていくのに苦労している。	
			交通安全教育や様々な緊急時対応の学びによる危険回避能力の育成	事故報告書数の減少 安全教育啓発行事への参加状況	B	最近では、幸いながら本校生徒が絡んだ大きな事故は起きていないが、スマホを見たり、イヤホンをつけたりしながらの自転車運転や歩行などが多く、ヒヤリ・ハット事例は結構多いのではないかと考える。	
(3)	地域協働と社会参画意識を涵養するための連携の強化	①ボランティア活動の推奨や地域人材の活用により、生徒と地域を結ぶ。	地域の行事に積極的に参加することによる地域社会への意識向上	ボランティア等への参加数 学校評価アンケート	B	1 年次のさくらレポートでは、市職員のレクチャーを手掛かりとし、実際に市内の方々とやり取りしたうえで、改善提案を考えている生徒が多く、意識は向上している。・美術部に対する地域からの様々な協力要請に本年度はすべて対応し、意識はかなり向上した。しかし、生徒たちが自分の作品の充実を図る時間を確保する観点から、次年度以降は地域協力を若干制限していく必要もあると考える。	少子化を背景とした第3期高等学校再編計画等を考え合わせると、学校の特色化・魅力化を推進しなければならない。長い目で見て生徒が魅力を感じる学校を、構築していったほしい。地域から選ばれる学校になるためにも、将来を見据えた特色ある学校づくりを、地域の協力も得ながら進めてほしい。 保護者として学校の実情がわからないうえに、義務教育の時代と違い、高校生は生徒の自己責任の要素が強くなってくる。その意味で保護者も学校に目をむけるべきであり、学校側も保護者が学校の様子をより把握できるような、情報発信をしてほしい。
			生徒側からの地域への課題提起や解決策の提案による地域社会への貢献	市役所・商工会等との交流 ホームページの活用状況	B	感染症対策で機会も減っていたと思う。今後は多くの生徒が学校として参加できる企画を立てるとよいのではないかと（高齢者にスマホ教室をしたり、特殊詐欺の啓蒙活動をしたり、小学生に何かを教える教室をしたり、アカデミアさくらを復活させるなど）	
		②日頃のあいさつや清掃等を大切に、生徒のモラル向上と地域の信頼獲得を図る。	挨拶と身だしなみに対する意識向上による、公共空間におけるマナーの向上	校内外における挨拶・身だしなみへの評価	B	挨拶や清掃活動に積極的に取り組む生徒と、そうでない生徒の両方がいるが、全体的には残念ながらまだまだであると考え。また、服装等の指導をされても、教員の見えないところや校外では、すぐにだらしなく戻ってしまう生徒も多い。	
	地域協働と社会参画意識を涵養するための連携の強化		環境美化や整理整頓による組織や他者との信頼関係の構築	校舎内外の清潔感・美観の向上	A	清掃活動に積極的に取り組む生徒も個人ではそこそこ多いので、表面上はそれなりにきれいに保たれていると考える。また、本校の校舎は古く、またほこりが廊下・階段に溜まりやすい構造でもあるので、実際以上に煤けて埃っぽく見えるのではないかと。しかし、「組織や他者との信頼関係の構築」といった段階にはまだ達していないと考える。	頭髮指導は夏の甲子園で優勝した慶応高校野球部のような、社会の価値観の変化に応じる一方で、どこかで線引きをする必要もあると思う。ただし、見直しは積極的に行うべきだと思う。学生には校則が必要で。社会に出てからも生かされる。あわせて、学校に応じた校則の見直しをすべきである。

(4)	教育力を最大限に発揮できる学校づくり	①業務の効率化や協力体制の強化により、生活しやすい環境づくりに努める。	積極的なICT活用と、校務分掌の個別分析による校務効率化	ICT活用により、生徒と接する時間の増加	B	授業時を含め、ICT活用に積極的な教員は増えてきたが、ICTを用いた授業準備のために、かえって時間が多くかかってしまった先生もいるかもしれない。また、校務効率化は、単年度ではまだ劇的には達成できないと思う。	評価の指標の「ややあてやばる」と「ややあてはまらない」は紙一重。もう少し選択肢を細かく分けると回答者も答えやすいのではないかな。 ABCDの評価より、達成状況と課題を見て改善したらよいと感じる。
		①業務の効率化や協力体制の強化により、生活しやすい環境づくりに努める。	教育活動の在り方についての活発な議論と、より良い教育活動の提案	職員会議、各種委員会、職員室内における活発な意見交換	B	以前から踏襲されて来っていて、誰も疑問を持たなかったシステムや業務のやり方に対し、その内包する問題点への気づきや改廃に関連した議論が生じたことはよい傾向だと思う。ただ、変えることそのものが「自己目的化」しないように注意していかないといけないと考える。	
		②危機管理の視点に立った教育計画の点検により、健康や安全の確保に努める。	前年度の反省やヒヤリハット事例を次に生かせるPDCAサイクルの構築	行事・教育活動直後の改善点の収集と要項への反映	B	行事・教育活動直後の改善点の収集と公表が以前より明らかに向上していると考ええる。改善点を次回の要項に反映させることを怠らないように、継続的に注意していく必要があると思う。	民間企業では1年を通じて課題が変化し、新たな課題に対してどう対峙していくか、その都度考える。また、決算の数値を重視して、毎月1日に社員のミーティングを行い課題点を見つける。それをどう改善していくかを吸い上げてる。また、月毎に問題点を挙げ、改善に向けて努力していく。資格取得など、個人のレベルアップも大事である。 ↓ これを教育の世界に置き換えて考えると、様々な課題に対して短期的目標と中長期的目標を区分して設定し、適切な時期に効果測定を実施した上で、次の目標を設定し改善につなげるべきであろう。
			多様な生徒と向き合うための、充実した指導体制の構築	スクールカウンセラーの活用 生徒支援委員会の活用	A	危機管理の視点に立った教育計画の点検による健康や安全の確保と、多様な生徒と向き合うための充実した指導体制の構築の関係がよくわからないが、一部の多様な生徒のためにリソースを割きすぎている感はある	

※達成状況と課題については、たくさんの意見が寄せられているので、ピックアップして掲載しています